

## 短梢せん定仕上げせん定講習会

JA 中野市園芸課

### 1. せん定を始める前に樹の確認を

- ① 樹全体を見て枝の状態を確認する。
  - ・枝の枯れ込みの程度（芽座がとんでいる箇所がないか？芽座に使える芽はあるか？）
  - ・樹勢の確認（結果枝の太さ・去年の樹の様子 等）
  - ・樹体被害の確認（クビアカスカシバ食害痕・黒とう病斑痕・幹の裂傷・凍害 等）
- ② 芽の枯れ込みやとんでいる芽がある場合は近くの枝を誘引する

### 2. 剪定方法

- ① 芽の間隔が空いていないか確認する
  - ・芽の間隔が空いている所は隣の芽座から枝を主枝に添わせて誘引し、空間を埋める。
  - ・1芽～2芽空いている場合は、隣の芽から出た新梢を誘引して、空間を埋める。  
（1芽座から新梢を2本出して空間が空きすぎないようにする。）

#### ② 短梢部分の枝の切り方（収穫3年目以降）



※しっかりと充実した膨らんだ芽を残してせん定する(触って確認)

※2年枝(去年の延長枝部分)は、基底芽が発芽しない可能性があるので2芽せん定をする。

※2芽せん定の場合、芽座が年々長ならないように注意する

※せん定時期は厳寒期以降（2月中旬以降）がよい。水上がり前の場合、切り口を保護する

#### ③ 去年の2芽せん定により結果枝が1芽座に2本残っている場合

- ・主枝に一番近い芽まで切り返すのが基本。
- ・若木の主枝を延長している樹では、1芽座から新梢を2本発生させると主枝先端部が衰弱しやすいので、注意する。（樹がよく育つように努める）
- ・枝の径は8mm以上の枝を残す。

#### ④ 延長枝の剪定

- ・延長枝には副梢を残さず 15~20 芽程度で整理をすると良い。(樹勢によって調整)
- ・延長枝は概ね 10mm の太さのところで切る。
- ・芽キズ、発芽促進剤塗布はしっかり行う。(水上がり直前：3月中旬以降)

#### ⑤ その他の注意

若木(特に植え付け2年目まで)は基幹部に近い枝を出し過ぎると延長枝が負けてしまい衰弱してしまうので、基幹部周辺には強い枝を発生させない。

#### ⑥ 各品種の短梢剪定について

##### 【シャインマスカット】

短梢部の剪定については房数確保(花の確保)や節間が空くため、空間の空いている場所は基本的に2芽剪定実施する。2芽剪定を行った場合、両方の芽が出たのを確認したのち先端の芽かきを行い、基の方の芽を使用する。(芽かきの時期は展葉2~3枚ごろ)

1つの芽座に1房を基本とし、発生の弱い・遅れて発生した新梢は着果させず空枝にする。

**目標収量 10a当たり 3000房 ・ 1.5~1.8 トン (着果過多・大房にしない)**

##### 【ナガノパープル】

べと病、晩腐病対策と成熟(着色)促進のため、あまり棚面を込ませないように注意する。そのため短梢の剪定時は1芽座に芽をおきすぎないように注意する。(芽かきで調整)誘引の際に新梢が欠けやすいので、誘引線は主枝から15cmくらいの位置に置いておく。

##### 【ピオーネ】

ナガノパープル同様べと病、晩腐病に弱いため、棚面を混ませないように注意。発芽しない芽などもあるため、芽数はある程度残し、芽がとばないようにする。

### 3. 近年見られる弱樹勢について

近年シャインマスカットを中心に弱樹勢樹が散見されます。

弱樹勢を中心に裂果が発生する等、弱樹勢による弊害が発生しています。

弱樹勢樹は玉の肥大に影響する等品質面でも苦労しますので、樹勢を強めに維持するよう以下の事を心掛けましょう。

- ① 着果過多に注意する。
- ② 弱樹勢樹は剪定の際にあまり樹冠を広げず、根域を広げるように努める。  
(延長枝を短く剪定、1芽座から複数の枝を出さない等)
- ③ 夏場の摘心を実施し、次年度の芽の充実、結果枝の樹勢バランス均一化。
- ④ 堆肥等の施用をして、根域の拡大に努める。(3月下旬頃か?)  
根が伸びるよう完熟堆肥等を畑に入れて、根域が広がるように土壤改良に努める。  
(根が伸びるよう、根の先端めがけて広い範囲で施用する)

# 短梢剪定芽キズ・発芽処理講習会（H31）

J A中野市営農センター

J A中野市ぶどう部会

## 1. 芽キズ処理方法

### ① 芽キズ時の注意点

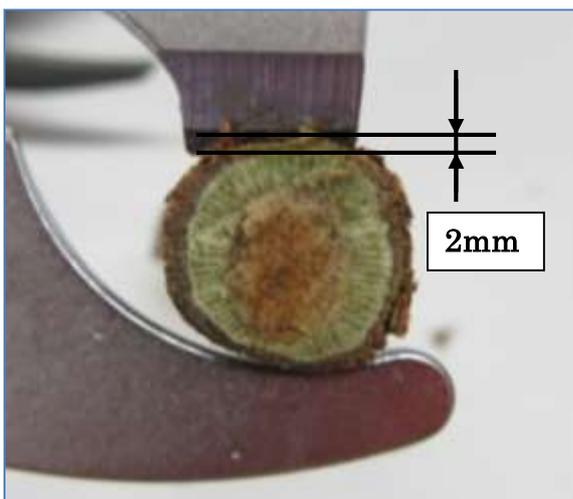
#### ※主枝延長枝は必ず行うこと

- ・前年、枝を伸ばして延長枝としたものは必ず芽キズ処理を行う。（基本 20 芽以下）
- ・延長枝以外の枝（昨年の結果枝等）は基本的に芽キズ入れない。
- ・芽キズ処理は枝を誘引した後に行うこと  
（逆の場合、誘引時に枝が折れる可能性あり）
- ・芽キズを入れる場所は先端 3 芽を除いた全ての芽に入れる。

### ② 芽キズ処理方法

#### ※芽キズは芽の先端部の方に入れる。（入れる位置に注意）

- ・剪定ばさみや鋸等で、芽の場所から先端部の方向に 2~3mm の位置に、芽の幅で形成層に達する深さのキズを入れる（芽キズは広く浅くという感じで行う。）
- ・処理時は水上がり直前が最も良く、早すぎると効果が劣る。
- ・発芽促進剤を併用する場合は芽キズ処理を先に行う。



- ・芽キズは芽と同じ幅で入れる事がポイント

図 芽キズの入れ方

## 2. 発芽促進剤の使用

### ・発芽促進剤

#### ① CX-10

使用時期：水上がり直後。（3月下旬～4月上旬）

方法：CX-10を芽に塗布、散布する。

塗布は今年発芽する部分（延長枝）の芽に、ペンキのハケ、スポンジ等で塗布。

散布は霧吹き・背負動噴等で枝にかかるように散布する（マスク使用）

散布液が余った場合は、芽座周辺にも散布、塗布してもよい。

濃度：20倍2ℓに100ml

注意：石灰窒素と同じ成分なので処理前後は飲酒をしない。

ハウスでは早すぎる処理は生育不良、花穂退化するといわれている。

シアナミド剤は有効期間が1年間、使用後は適切に処理する。

かぶれる恐れがあるので、手袋、マスクなど皮膚を保護できるものを着用する。

#### ② 液肥メリット青

使用時期：水上がり直前に実施する。芽キズ処理と同時に行うと吸収しやすい。

使用方法：メリット青2倍液（1：1の割合）を芽キズの場所・葉柄痕の塗布が効果的。

※CX-10使用時のかぶれが気になる方はメリット青を使用。（若干かぶれにくい）

#### ③ 発芽促進剤の使用時期

芽キズ処理後に発芽促進剤を塗布するのが理想

芽キズと発芽促進剤の同時処理も可

## 3. その他

#### ① 春先の管理について

藁外しは防除開始前（4月上旬）あたりで外す。

苗木の植え付けについては4月中旬頃を目安に行う。（たっぷりとかん水する）

#### ② 粗皮削りについて

3月中旬頃～特に昨年カイガラムシやクビアカスカシバが発生した園は必ず実施。

#### ③ 巻きひげやなりかすの切除（昨年晩腐病が多発した園は特に実施する）

#### ④ 種枝の誘引（中梢・長梢はしっかり実施。短梢は主枝をしっかりと固定する）

#### ⑤ 苗木の植え付け（4月中旬 後日講習会実施）